

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

兵庫県高砂市
が応援するふるさと名物

歴史と文化をめぐるツーリズム
～竜山石、松右衛門帆布から感じる
歴史とロマン～





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

令和2年 2月 1日

応援宣言

兵庫県高砂市

高砂市の
プロフィール

「高砂やこの浦舟に帆をあげて・・・」と古くからめでたい謡曲「高砂」（世阿弥作）で知られる高砂市は、兵庫県南部播磨平野の東部に位置し、東に加古川が流れ、南に瀬戸内播磨灘を臨み、古くから白砂青松の風光明媚な泊として栄えてきました。



高砂市海浜公園



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

兵庫県高砂市

高砂市の
プロフィール

古墳時代から現在まで、約1700年以上採石され続けている「**竜山石**」は、高品質で加工に適した石材として石棺、石仏、用水路などの石垣、建築土木資材など、時代ごとに様々な用途で全国で使われ続けています。竜山石を全国に流通させた生産、加工、運搬、交易の技術は、現在まで脈々と継承されています。

また、江戸時代、入浜式塩田の発祥地で製塩業が盛んでした。近代になると、機械・製紙・食品や化学関係の企業が進出し、製造産業による地域産業が形成され、現代にも引き継がれています。

高砂市では、有史以来、ものづくりの風土が醸成され、歴史的な地場産業が地域に根付き、現代の社会や生活を支え続けています。



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

兵庫県高砂市

高砂市の
プロフィール

製造業にとどまらず、播磨灘にそそぐ加古川の最下流に位置する高砂地区は、江戸時代に姫路藩の港湾都市として整備され、加古川舟運と瀬戸内航路を結ぶ物流の拠点として繁栄しました。港町高砂で生まれた工楽松右衛門によって発明された「**松右衛門帆布**」は、北前船をはじめ全国の廻船に用いられ、船の高速化によって、物流に革命をもたらしました。そして、交易の拠点として発展し、物が集い、人が集う交流と文化が育まれてきました。平成30年5月には、北前船の寄港地・船主集落として、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の追加認定を受け、歴史文化を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

近代を迎え現在では、市街地化が進んだり、播磨臨海工業地帯が広がるまちに変貌していますが、古代から脈々と続くものづくり文化は息づいています。

「石の宝殿」や謡曲「高砂」など伝説や神話、かつて栄えた交流と文化の街並みが残る歴史文化あふれるまち「高砂」を歩いて・触れて体感していただきたいと思います。

◆生石神社 ～石の宝殿～



高砂市阿弥陀町生石にある生石神社。
ご神体で、水に浮かんだように見えることから「浮き石」と呼ばれ
また、「日本三奇」のひとつです。一辺5 mを超える巨大な直方体の
石造物で、背面には突起がついています。国内でも他に類例がなく、大変
貴重な文化財です。生石神社境内にある建築や石造物、古墳も石の宝殿とあ
わせて、国指定史跡となりました。



生石神社



石の宝殿

高砂市の主な地域資源

◆ 竜山石石切り場（竜山石採石遺構）

竜山石とは今から約9000万年前に形成された凝灰岩で、古墳時代から現在まで約1700年間採石され続けています。

竜山全体で150箇所以上の採石遺構（古代～近代）があり、そのうち31箇所が国の史跡として指定されています。現在も3箇所で採石業が行われており、生きた産業遺跡といえます。

竜山尾根上には、江戸時代に岩盤に「観涛処」と三大字を刻んだ景勝地があります。



観涛処



竜山石石切り場

高砂市の主な地域資源

◆工楽松右衛門旧宅



工楽松右衛門旧宅は、江戸時代に海運業や港湾改修などを行った、工楽松右衛門の居宅です。

日本の帆布製造の始祖として知られる初代工楽松右衛門は、高砂町東宮町に生まれました。江戸時代の航海に革命的進歩をもたらした「**松右衛門帆布**」の生みの親です。丈夫な帆布を生み出した工楽松右衛門にまつわる資料などの展示もしています。

◆高砂町の町並み

(高砂市高砂地区歴史的景観形成地区)



◆高砂神社



高砂神社境内の常夜灯



◆竜山石

高砂市中央に位置する竜山山地から産出される竜山石は、約9,000万年前（白亜紀後期）の火山活動でできたものです。流紋岩溶岩が堆積し、再凝固してできるハイアロクラスタイトと呼ばれる全国的にも希少価値の高い岩石です。固さと粘りがある石質で細かい加工が可能のため、古墳時代には大王や豪族の石棺に使用され、その後、寺社仏閣をはじめ明石城の石垣などにも使用されるなど古代から現代に至るまで高級石材として普及しています。

現在は、花器や食器に加工され、高砂の特産品として親しまれています。

ふるさと
名物



◆松右衛門帆布

初代工楽松右衛門が作った帆布で江戸時代後期には瞬く間に普及し、海運業の発展に大いに貢献しました。平成22年には、220年前に生まれた松右衛門帆布を独自に復元し、極厚ながら柔らかく、優しい手触りの松右衛門帆布の特性を生かしたバッグが誕生しました。現在、高砂から日本全国、世界へ向けて発信されています。



高砂神社境内の松右衛門像

ふるさと
名物



ふるさと名物の内容

◆高砂染

江戸時代から昭和の初めまで高砂や姫路を中心に播磨地域で広まった染物です。江戸時代、高砂市など播磨地域一帯は木綿の産地でした。

高砂染は、徳川将軍家における筆頭祝言曲で名高い謡曲「高砂」を具現化した“**ことほぎの染め物**”であり、最盛期には幕府や朝廷への献上品として重宝されてきました。多くの高砂染では、夫婦和合の象徴として親しまれてきた高砂神社の「相生の松」をイメージした松枝の模様に重ね、尉と姥が持つ熊手・竹箒が幸福の象徴として染め抜かれています。

現在は、従来の製法を復元しながら手ぬぐいや小物などの製品を作っています。

ふるさと
名物



高砂市の取り組み



独自の支援策

●ふるさと納税返礼品

ふるさと納税の返礼品として、販路開拓だけでなく、松右衛門帆と竜山石の魅力为全国に伝えています。

また、高砂市の「歴史と文化をめぐるツーリズム～1700年以上ものづくり文化と歴史とろまんを結ぶまちへ～」の観光型ツアーや体験型ツアーの実施に向け検討を進め、地域資源をめぐる観光とものづくり体験を通じたツアー・イベントを通じて資源の開拓と支援を行うなど、観光振興を進めていきます。

●PR活動

石の宝殿及び竜山石採石遺跡

平成26年10月に国史跡に認定された「石の宝殿及び竜山石採石遺跡」を全国にPRし、誘客を図り、地域の活性化を進める事業に取り組んでいます。

史跡「石の宝殿及び竜山石採石遺跡」整備事業（平成30年度から7箇年度計画で実施中）と連動し、来訪者に石の宝殿だけでなく、史跡全体を石の観光エリアや観光案内所兼施設全体のガイダンス施設を整備する方向で進めています。

「結びの石彫シンポジウムin高砂」を開催
(2018年11月1日～2019年2月28日)



歴史的景観形成地区

修復した工楽松右衛門旧宅を中心とした高砂市高砂地区歴史的景観形成地区は、北前船寄港地・船主集落として日本遺産にも認定された地区でもあるためこの地域をひとつのエリアとして、将来的にはインバウンド客の呼び込みを視野に入れ、周辺施設や店舗等とも連携を図り、長期滞在が可能となるエリアに向け取り組んでいます。

